

不登校生徒とその保護者のための進路講座 2017 報告書

不登校とその保護者のための進路講座 2017

と き 2017年 8月 23日(水) 19:00~21:00

ところ 筑紫野市文化会館
福岡県筑紫野市上古賀1丁目5-1

参加費 無料

講 師 木村素也先生(不登校生保護者の会「ぼちぼちの会」会長)

対 象 不登校・学校に行きたがらない子どもとその保護者。
または、不登校の親子をサポートしたいと思っている人。



お問い合わせ 川波 080-5608-7661 多田 090-1193-2315 メール ikueco@yahoo.co.jp

主催 筑紫野市教育委員会 不登校の親の会ティータイム

平成29年8月23日(水)19時から筑紫野市文化会館 多目的ホールで「不登校の何が問題なのか～進路選択に当たって～」を講演してきました。主催は筑紫野市教育委員会と不登校の親の会ティータイムの共催で行われました。平日の夜ではありましたが多くの方に参加いただきありがとうございました。最初にC&S音楽学院の卒業生の歌とインタビューがあり会場の緊張がほぐれたところで講演に入りました。この時期に設定され理由の一つに新学期を控え「9月1日は子どもの自殺の特異日」と言うことをふまえ、そろそろざわついてきた子ども達へのメッセージも含めて「進路」を中心に話してきました。本来、進路選択の悩みは学校に行っていようがなかろうが、共通してあるものですが、現状で見れば不登校の子どもは明らかに不利益な立場にあります。動き出すまでに時間がかかる子どもほど、早めに取りかかることも大切ですね。それまでにどんな力をつけておけばいいのか。今できることは一人一人違うのですから・・・。

21時過ぎに終わった後、質疑に移りました。その後、全体が輪になっての交流会など充実した会になっていたと思います。その中で高校生からの意見も力強いもので頼もしく感じさせられました。

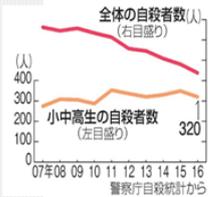
子どもが「学校に行きたくない」と強く訴えかけてきたとき、大人はどのような対応をすれば良いのでしょうか？ 木村先生は「学校にどうしても通えないなら、それでいいのだよ。その先のことを考えよう」と寄り添い、苦しみを取り除いてきた先生です。福岡市で38年間教員生活を送り、その間に立ち上げた『不登校支援の親の会』の活動をサポートし続けている元能古中学校校長。「大切にしていたのが、そのとき一番困っている生徒や保護者に関わることでした」退職から3年あまりが経過した現在も、不登校の当事者や保護者の相談を受けていらっやいます。

～パンフから～

若年層の死因、自殺が1位

2017年05月19日 02時03分 西日本新聞

厚生労働省がまとめた2017年版自殺対策白書の概要が18日、判明した。5歳ごとに区切った年齢階級別で見ると、15歳から39歳までの5階級で、死因の1位が「自殺」だった。白書は「若い世代の自殺は深刻な状況にある」とし、若年層の自殺死亡率（人口10万人当たりの自殺者数）を低下させることを重要な課題として挙げている。白書は今月下旬にも閣議決定される予定。



我が国における若い世代の自殺は深刻な状況にあり、15～39歳の各年代の死因の第1位は自殺となっている。こうした状況は国際的にも深刻であり、15～34歳の若い世代で死因の第1位が自殺となっているのは先進7カ国では日本のみで、その死亡率も他の国に比べて高いものとなっている。

先進7カ国の年齢階級別死亡者数及び死亡率（15～34歳、死因の上位3位）

順位	日本 2013			フランス 2011			ドイツ 2013			カナダ 2011		
	死 因	死亡者数	死亡率	死 因	死亡者数	死亡率	死 因	死亡者数	死亡率	死 因	死亡者数	死亡率
第1位	自殺	4,731	18.1	事故	2,377	15.4	事故	1,588	8.5	事故	1,588	17.9
第2位	事故	1,533	5.9	自殺	1,440	9.3	自殺	1,428	7.6	自殺	1,043	12.0
第3位	悪性新生物	1,262	4.8	悪性新生物	1,054	6.5	悪性新生物	1,027	5.5	悪性新生物	502	5.8

順位	アメリカ 2012			イギリス 2013			イタリア 2012			韓国(参考) 2011		
	死 因	死亡者数	死亡率	死 因	死亡者数	死亡率	死 因	死亡者数	死亡率	死 因	死亡者数	死亡率
第1位	事故	27,586	32.0	事故	2,038	12.1	事故	1,589	12.3	自殺	2,580	18.3
第2位	自殺	11,068	12.8	自殺	1,320	6.6	悪性新生物	889	6.9	事故	1,255	8.7
第3位	悪性新生物	6,885	10.3	悪性新生物	1,070	6.3	自殺	620	4.8	悪性新生物	874	6.2

「死亡率」とは、人口10万人当たりの死亡者をいう。

いのちの電話や教育相談の時間の充実などこどもに対するSOSの出し方教育も大切ですが、こどもにSOSの出し方を教えるだけでなく、こどもが出したSOSについて、親や教師を含めた周囲の大人が気づく感度をいかに高め、また、どのように受け止め、子どもに寄り添い命をつなぐかという視点も重要です。せっかく発したSOSは、大人にとっては甘えに聞こえます。説教されてしまう経験を持つこどもが多いのでは。

不登校というシグナルが出せる環境。自分の考えがうまく説明できないこどもも多い。それも含めて受け止めてみる。単なる甘えやわがままとしてとらえない。不登校を受け止めてもらえれば自殺まで至らないことも多い。不登校が受けられてもらえなければ逃げるところもない。

講演内容

1. はじめに
2. 現代の若者事情 ～若者の自殺～
3. 不登校生の中学卒業後の進路情報
～小中学校で不登校を経験したこどもの進路選択の現状～
4. 最近の教育事情
5. 不登校を経験した生徒の義務教育終了後の進路についてどう考えるのか
6. 進路を決めるとき的前提となるもの(どんな力を育てておくことが大切なのか)
～小中学校の成長過程で大切にしたいこと～
7. 進路を選択するときのポイント
8. 今何ができるか・今何をすべきか
9. おわりに

